

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 安満 真哉

二〇二四年
全国統一防火標語
守りたい
未来があるから
火の用心



洲本市消防団 出初式 一斉放水



新たな兵庫のスタート 兵庫県知事 齋藤元彦

新年あけましておめでとう
ございます。
昨年、再び県民の皆様のご
負託をいただき、知事として
二期目のスタートを切りまし
た。この三年間、兵庫の未来
をつくる様々な改革や取組に
全身全霊をかけて挑戦してき
ました。今、その成果がよう
やく実りつつあります。この
流れを止めるわけにはいきま
せん。県議会、市町、県職員、
そして県民の皆様とともに、
オール兵庫で躍動する兵庫の
実現に向けた次の一歩を踏み
出してまいります。

一つには、若者が輝く兵庫
づくりです。
少子化の時代だからこそ、
若者に直接届く施策を推進し
ます。県立大学の無償化や奨
学金返済支援制度など、多く
の県民の皆様から期待が寄せ
られている教育費の負担軽減
に取り組みます。また、県立
高校の環境整備、高校生チャ
レンジ留学の拡充、不登校対
策の強化、不妊治療支援施策
の充実など、若者が持つ不安
を解消し、将来の夢に挑戦で
きる環境をつくります。
二つには、誰もが活躍でき

新年のごあいさつ



公益財団法人 兵庫県消防協会
会長 安満 真哉

令和七年の新春を迎え、謹
んでお慶び申し上げます。
消防団員・消防職員並びに
ご家族の皆様方におかれまし
ては、平素より当協会の運営
並びに活動に対し、格別のご
理解とご協力を賜り、厚く御
礼申し上げます。
消防団員・消防職員の皆様
には、平時か否かにかかわら
ず日々厳しい訓練を積み重ね
られ、地域住民の生命と暮ら
しを守るため献身的にご尽力
いただいております。ことに對
し、心より敬意を表します。
さて、ちょうど一年前の元

日に発生しました能登半島地
震では、人的・物的被害が多
数発生したところです。被害
に遭われた関係者の皆様方に
は心よりお見舞い申し上げます。
被災地ではなかなか復
旧・復興が思うように進まな
い中、九月には豪雨災害に見
舞われました。
八月には宮崎県日向灘を震
源とする地震が発生し、初め
て南海トラフ地震臨時情報が
発表され、改めて自然の持つ
激しい一面を垣間見るに至つ
たところです。
このような中、地域防災に



る兵庫づくりです。
多様な自然や文化、産業、
そして、地域の現場で活躍す
る県民の皆様が、兵庫の強み
です。万博後の持続可能な地
域づくりの原動力とすべく、
ひょうごフィールドパビリオ
ンの取組を加速させます。水
素などの次世代産業やスター
トアップ、有機農業など、兵
庫が持つポテンシャルをさら
に磨き上げ、社会課題の解決
と産業の活性化の両立を図り
ます。
三つには、安全安心に暮ら
せる兵庫づくりです。

阪神・淡路大震災から三〇
年の節目を迎えます。一月一
七日に「ひょうご安全の日の
つどい」を開催するとともに、
万博期間中の九月には「創造
的復興サミット」を開き、創
造的復興の歩みを改めて確認
し、広く発信します。能登半
島地震等で浮き彫りになった
課題への対応策をとりまとめ
防災訓練や地域防災計画の見
直しに反映させます。さらに、
特殊詐欺被害対策や客引き防
止対策、横断歩道安全対策な
ど、子供から高齢者まで、誰
もが安全安心に暮らせる環境
を整えます。

丁寧な対話と謙虚な姿勢を
胸に刻み、しっかりと県政を
前に進めていきます。皆様の
ご理解とご支援をよろしくお
願いたします。



おける我々消防団の存在意義
はますます大きくなっており
ます。三〇年前に発生した阪
神・淡路大震災を経験した兵
庫県は、その後見事に復興を
遂げるに至りました。頻発す
る様々な自然災害を警戒しつ
つ、本年においても引き続き
消防団活動の充実・強化に努
めていく必要があると認識し
ております。
昨年においては県消防操法
大会を実に六年振りに開催し、
出場隊の皆様方の日々たゆま
ぬ努力の成果を十分に発揮さ
れている姿を見ました。

結びに、今年こそは災害の
ない平穏な年となることを、
また、消防団員・並びに消防
職員の皆様方のご活躍とご健
勝を心からお祈り申し上げます。
新年のご挨拶とさせていただきます。

今後とも、県民の安全・安心
を確保するため、引き続き心
身の鍛錬・技術の錬成に努め
られ、ご精励いただきますよ
うお願い申し上げます。

当協会といたしましても、
消防の持つ役割とその重要性
を深く認識するとともに、地
域の安全・安心のため、各種
事業の実施を積極的に推進し
ていく所存です。



自治体消防七五周年記念大会開催

兵庫県消防協会事務局

次第等

黙祷

第一部 記念式典

(一) 三時二〇分～四時〇〇分

(二) 開式の辞

(三) 国歌斉唱

(四) 式 辞

(五) 天皇陛下おことば

(六) 祝 辞

(七) 表彰及び感謝状贈呈

閉式の辞

第二部 記念講演及び

シンポジウム

(一) 記念講演

講演①「日本消防—これ

までとこれから— 神戸

大学名誉教授・室崎益輝

氏

講演②「日本消防の歴

史」東京大学大学院人文

社会学系研究科・文学部教

授・鈴木淳氏

(二) シンポジウム「これか

らの日本消防 —さらなる

変化への対応—

コーディネーター・秋本

敏文 日本消防協会会長

パネリスト・小谷敦、総務

省消防庁国民保護・防災

部長、室崎益輝・神戸大

学名誉教授、立谷秀清・

相馬市長・前全国市長会

会長、大江秀敏・元全国

消防長会会長、植田和

生・元甲賀市消防団長・

前滋賀県消防協会会長

参加者(約八〇〇名)

内閣総理大臣、衆議院議

長、参議院議長、最高裁

判所長官、総務大臣、関

係国会議員、政府関係者、

地方自治体関係者、消防

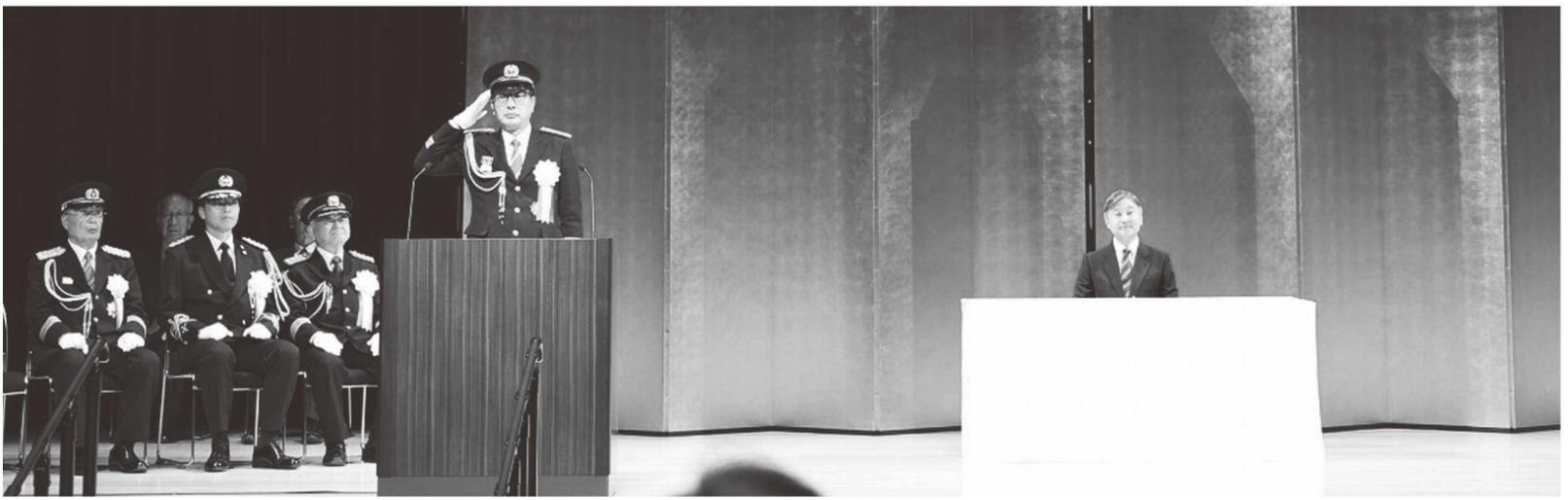
さる令和六年一月二十九日、昭和二十三年自治体消防体制成立以来七五周年となることを記念し、自治体消防七五周年記念大会が、公益財団法人日本消防協会並びに全国消防長会の主催により、天皇陛下をはじめとするご来賓をお迎えし、新しく完成した日本消防会館において開催されました。

第一部記念式典においては、天皇陛下のおことば、来賓の方々の祝辞の後、表彰及び感謝状が贈呈され、兵庫県の消防団からは一四九名の方が表彰されました。

第二部記念講演及びシンポジウムでは、数々の災害と闘った日本消防の歩みを振り返るとともに、新たな災害環境に直面するなか、国民の皆様への安全向上に貢献する日本消防の一層の発展を目指し、意見が交わされました。



講演シンポジウム



七五周年大会

第八九期 初任教育査閲・卒業式

(公財)兵庫県消防協会



第八九期初任教育スローガン 「熱烈峻厳 情熱に勝る 才能はなし」

令和六年九月二一日、兵庫県消防学校にて第八九期初任教育査閲が執り行われました。

一四四名の教育生たちは、半年間厳しい訓練を積み重ね、その逞しく成長した姿をご家族をはじめ関係来賓の皆さまや各消防本部の消防長を前に、余すところなく披露しました。査閲を終えた教育生達は九月二六日に卒業式を迎え、それぞれの所属において「消防人」としての新たな一歩を踏み出しました。

第八九期初任教育のスローガンである「熱烈峻厳」、これは「情熱をこめて事に当たり、何があっても絶対に譲らない厳しさを持つこと」という意味を持つ四字熟語です。

教育生たちは、数々の厳しい訓練の中で体力の限界を感じ、気持ちで負けそうになる時もお互いに励まし合い常に前を向き、心をひとつに乗り越えてきました。訓練を重ねるごとに消防士に課せられた使命と責任の重さを強く感じるとともに、人を助けることの難しさを実感し、その時心に刻んだ言葉がこの「熱烈峻厳」という四字熟語だったそうです。

この言葉を胸に刻んだ第八九期一四四名の消防士たちは、これから現場の最前線において消防士としての使命を果たすため、情熱と厳格な熱意を持って、努力を続けてくれることでしょう。



第三一回兵庫県消防操法大会開催!



入場隊列

令和六年七月二八日(日)、県立広域防災センターにおいて、第三一回兵庫県消防操法大会が平成三〇年以来、実に六年振りに開催されました。当日は夏本番の暑さの中、県下各九地区から選ばれたチーム(小型ポンプの部十隊、ポンプ車の部七隊)が日頃の訓練の成果を存分に発揮し、暑さに負けない熱気溢れる大会となりました。

【開会式次第】

- 一 開会のことば
(坂本大会副会長
(消防協会副会長))
- 二 国旗吹奏
- 三 黙とう
- 四 優勝旗返還
ポンプ車の部・
南あわじ市消防団
- 五 小型ポンプの部・
福崎町消防団

- 六 大会会長あいさつ
(安満消防協会会長)
- 七 激励のことば
(齋藤知事)
- 八 来賓祝辞
(谷井 いさお県議会議
副議長)
- 九 選手宣誓
(丹波市消防団
水谷 慎吾)
- 九 審査長注意
(岡県立広域防災セン
ター長)

競技は、小型ポンプの部、ポンプ車の部の順に行われました。



ポンプ操法



小型ポンプ優勝の福崎町消防団



ポンプ車優勝の姫路市網干消防団

各出場隊とも訓練の成果を十二分に発揮し、迅速かつ安全・正確な動作で火点に向けて放水が行われ、火点が高くなる度に応援団、観客から声援と拍手が沸き起こりました。全出場隊の操法終了後、大会審査長から審査結果の発表が行われると、会場からは出場選手に対して惜しめない拍手が送られました。大会結果は次のとおりです。

【大会結果】

- 小型ポンプの部
優勝 福崎町消防団
九三・三点
(全国大会へ出場)
- 準優勝 丹波市消防団
八八・六六
- 第三位 たつの市消防団
八七・九六
- ポンプ車の部
優勝 姫路市網干消防団
一八九・二二
- 準優勝 加古川市消防団
一八二・二二
- 第三位 赤穂市消防団
一八〇・二二

表彰式の後、井上大会副会長(消防協会副会長)からの閉会の言葉をもって、第三一回兵庫県消防操法大会は幕を閉じました。なお、大会の運営にご協力いただきました関係各位に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第三〇回 全国消防操法大会

令和六年一〇月一二日(土)、二年に一度消防団による消防操法技術の全国ナンバーワンを決める第三〇回全国消防操法大会が、宮城県総合運動公園グランド・二一(宮城県宮城郡利府町)で開催されました。全国各地から集まった出場隊、応援者、来場者により会場は埋め尽くされました。

各都道府県の大会を勝ち抜いた精鋭達が、郷土の名誉と期待を担い、その卓越した操法を披露してそれぞれの日本一を競いました。選手達の操法に観客からは歓声があがり、会場は大変な熱気に包まれました。兵庫県からは、県大会で優勝した福崎町消防団が県の代表として小型ポンプの部で操法を披露しました。福崎町消防団は日頃の厳しい訓練の成果を発揮し、素晴らしい操法を披露されました。その結果、総合得点九三・五五の高得点を挙げました。



整列の様子

- 十 閉会式
 - ① 万歳三唱
 - ② 国旗降納
 - ③ 閉会宣言
- 【第三〇回全国消防操法大会成績順位】
- ポンプ車の部
 - 優勝 福崎町消防団
 - 準優勝 新宮町消防団
 - 長野県 諏訪市消防団
 - 富山県 砺波市消防団
 - 鳥取県 米子市消防団
 - 優良賞 長崎県 壱岐市消防団
 - 宮崎県 小林市消防団
 - 福井県 大野市消防団
 - 大阪府 羽曳野市消防団
 - 高知県 仁淀川町消防団
 - 秋田県 能代市消防団
 - 小型ポンプの部
 - 優勝 岡山県 高梁市消防団
 - 準優勝 愛知県 岡崎市河合消防団
 - 滋賀県 日野町消防団
 - 兵庫県 福崎町消防団
 - 優良賞 京都府 精華町消防団
 - 新潟県 聖籠町消防団
 - 佐賀県 白石町消防団
 - 岩手県 洋野町消防団
 - 群馬県 片品村消防団
 - 広島県 福山市消防団



- 【大会次第】
- 一 選手団入場
- 二 日本消防協会旗入場
- 三 開会式
 - ① 開会宣言
 - ② 国旗掲揚
 - ③ 優勝旗返還
 - ④ 主催者挨拶
 - ⑤ 来賓祝辞
 - ⑥ 歓迎の辞
 - ⑦ 競技上の注意
 - ⑧ 選手宣誓
 - ⑨ 選手団退場
 - 四 操法開始
 - 五 休憩
 - 六 操法終了
 - 七 女性消防操法披露
 - 八 表彰式
 - 九 審査結果発表

第四三回 危険業務従事者叙勲が 令和六年十一月三日に発令

二二名の兵庫県下元消防職員の 皆様が消防功労関係で受章

叙勲の榮に浴された方々は、消防職員として国民の命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたる著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の充実、強化に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。今回の伝達式は、令和六年十一月二日に東京都港区のニッショーホールにて執り行われました。

(敬省略)

全国消防関係受章者数

瑞宝双光章	三〇九名
瑞宝単光章	三二八名
計	六三七名

兵庫県下受章者(消防功労)

◎瑞宝双光章	
元淡路広域消防事務組合	
消防監	石田 一彦
元姫路市	
消防監	石原 浩二

◎瑞宝単光章

元尼崎市	消防司令長	岩脇 孝昌
元明石市	消防司令長	内山 満
元加古川市	消防司令	大西 隆
元姫路市	消防司令	内藤 康久
元尼崎市	消防司令長	中村 恵亮
元西宮市	消防司令	西阪 和己

元南但事務組合	消防司令長	太田 正明
元西宮市	消防監	川畑 眞実
元北はりま消防組合	消防監	清瀬 明彦
元西はりま消防組合	消防司令長	坂口 忠男
元丹波篠山市	消防司令長	谷田 重樹
元神戸市	消防監	日永 俊也
元三木市	消防司令長	藤原 秀行
元西はりま消防組合	消防監	船引 学

◎瑞宝小綬章

元芦屋市	消防司令	福田 隆文
元加古川市	消防司令長	福原 良久
元神戸市	消防司令長	松本 茂
元豊岡市	消防司令	丸谷 正人
元豊岡市	消防司令	森垣 博司
元川西市	消防司令	山田 修司



第四三回危険業務従事者叙勲伝達式出席の皆様

令和六年秋の叙勲(消防関係)

令和六年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で六一九名、うち兵庫県では、元消防吏員・元消防団員併せて二二名が叙勲の榮に浴されました。

なお、全国の消防関係受章者数、叙勲別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

全国消防関係受章者数

瑞宝小綬章	三三名
旭日双光章	四名
瑞宝双光章	六五名
瑞宝単光章	五一七名
計	六一九名

兵庫県下受章者(消防関係)

◎瑞宝小綬章		
元尼崎市	消防正監	本田 良生
◎瑞宝双光章		
元養父市消防団	団長	稲葉 広之
元宝塚市消防団	団長	辰家 宏弥
◎瑞宝単光章		
元西宮市消防団	分団長	荒内 浩治

元豊岡市但東消防団	副団長	石田 一幸
元加古川市消防団	分団長	稲岡 正樹
元東条町消防団	分団長	井上 克弥
元姫路市姫路東消防団	分団長	井上 英明
元姫路市姫路東消防団	分団長	大垣 近良
元高砂市消防団	分団長	小川 成人
元西宮市消防団	副分団長	垣内 英也
元豊岡市城崎消防団	副団長	岸田 政則
元豊岡市豊岡消防団	副団長	鞆留 眞司
元川西市消防団	分団長	河野 重員
元三田市消防団	分団長	眞造 達夫
元姫路市飾磨消防団	分団長	高井 太三
元神戸市中央消防団	副団長	鳥田 正雄



秋の叙勲伝達式出席の皆様

令和六年 秋の褒章 令和六年十一月三日 に発令

消防団員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく貢献した方へ授与される藍綬褒章に兵庫県から三名の方が受章の榮譽に輝かれました。今回の叙勲の伝達式は、令和六年十一月四日に東京都千代田区合同庁舎第二号館(総務省)地下二階講堂にて執り行われました。

(敬省略)

全国消防関係受章者数

紅綬褒章	一名
黄綬褒章	六名
藍綬褒章	一〇二名
計	一〇九名

兵庫県下受章者(消防功績)

◎藍綬褒章		
現神戸市長田消防団	団長	赤木 康孝
現芦屋市消防団	副団長	大宮 義弘
現神戸市水上消防団	団長	渡邊 真二



秋の褒章伝達式出席の皆様

消防団ピックアップ

Pick Up!

『持続可能な消防団活動を目標して』

豊岡市竹野消防団

【消防団の構成】
豊岡市は兵庫県北部に位置し、平成一七年四月に、旧豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町の一市五町が合併して誕生しました。消防団については、合併前の旧市町の特徴を活かすため、合併前の旧市町単位で団を構成する多団制が採用されています。

旧竹野町消防団の前身である竹野村消防団は、昭和三〇年三月に一八分団、団員数五三五名で発足し、昭和三二年四月の町制施行に伴い竹野町消防団に改称しました。その後、昭和四八年一月に大きな組織改編を行って六分団に再編、平成一七年四月の市町合併により豊岡市竹野消防団に改称、令和四年四月には五分団に再編し、現在に至ります。

【新たな取り組み】

豊岡市竹野消防団では、従来は夏季訓練と称し、全分団参加による消防操法大会を開催してまいりました。しかし、社会情勢の変化とともに、平日の夜間や休日等に家庭やプライベートを犠牲にして、操法大会に向けて長時間の練習をすることは団員の理解が得られず、代替できる訓練はないかと検討を重ねました。

豊岡市竹野消防団は、合併前の旧竹野町エリアを管轄しています。令和六年四月一日現在、団員は一九六名、消防資機材は、ポンプ自動車三台、積載車三台、指揮車一台、小型動力ポンプ八台を有し、竹野町民が安全に暮らせるまちづくりに貢献しています。

【未来の消防団員】

豊岡市竹野消防団では、年二回の「全国火災予防運動」の月中に、管轄区域内全域を、消防団車両数台で隊列を組み、火災予防のパレード広報を行っています。



訓練演技で障害物越しに放水



防火パレード途中で防火服、筒先を持って記念撮影

訓練演技の事前想定は、

播磨町は面積が九・一三平方キロメートルと兵庫県で最も小さく、その三割が海を埋め立てた人工島の工業地帯であり、非常にコンパクトな町です。町内にはJR土山駅と山陽電鉄播磨町駅の二駅があり、近隣の都市へのアクセスも良く、現在、都市化しつつある地域です。

播磨町消防団は、明治四〇年に阿閑消防組として発足し、大正八年に阿閑消防組公設が認可され、その後警防団と改称の後、昭和二年九月に阿閑村消防団となり、一団一分団にて発足しました。

そして、昭和三七年の町制施行により兵庫県最後の村「阿閑村」から「播磨町」に変更されたことに伴い、「播磨町消防団」となりました。

昭和五三年には、常備消防事務を隣の市である加古川市に委託し、平成一二年には、地域住民の永年の願いであった加古川市東消防署播磨分署が町内に設置され、消防業務及び救急業務の迅速化が図られました。平成一八年度には、女性分団が発足し、一団二分団となりました。

ここからは播磨町消防団の主な活動を紹介します。

まず、春は新入団員が増えてくることから消防団員としての礼式やポンプを取り扱うための

「操法演技」ではなく、事前の想定に基づく「訓練演技」を行うこととしました。「訓練演技」とは、吸水から放水までの一連の動作を二、三分団が合同で行う一つの演技です。水源の位置、中継する位置、火点の位置等のおおまかな条件だけを事前に指定し、細部については指定せず、分団の判断で行動し、吸水から放水までの一連の放水活動を行うものです。この一連の放水活動中に、副団長から突如の指示が入ることもあり、分団は、とっさの判断が求められます。

演技終了後は、消防署員から講評を受け、改善点の把握をし、今後の消防活動に活かしていくこととします。

毎回異なったものを考えますので、操法のように決まった手順はなく、また、事前の練習は必要ありませんが、消防器具の基本的な取扱いが普段から習得できているかが問われる訓練となります。この方法に変えてまだ二年目で、試行錯誤の連続です。消防技術の習得と団員の負担軽減、相反することのバランスを取りながら、団員の消防技術力向上と、持続可能な消防団活動を目指していきます。



「第二回全国女性消防操法大会」にて激励に来ていただいた安満協会長と出場隊

湯煎による防災クッキングの講座、活動新聞の作成による広報など、広報、啓発部門を中心に大きな役割を担っています。令和五年度には兵庫県の代表として「第二回全国女性消防操法大会」に出場し、団本部をはじめ、男性団員の支援も得ながら、播磨町消防団一丸となって懸命に練習に取り組み、入賞こそなりましたが、全国大会出場隊にふさわしい操法を披露することができました。

このように播磨町消防団は、防災、防火に関する活動はもろんのこと、地域の行事等においても緑の下力持ちとして地道な活動を行っています。今後、

がんばってます、女性消防団員

豊岡市の西部に位置する日高地域は、面積の四分の三を山林が占める自然豊かな地域で、約一六、〇〇〇人の人々が暮らしています。山陰海岸ジオパークの一部である神鍋高原があり、冬には西日本最大のスキー場でウインタースポーツを多くの方が楽しんでいきます。

豊岡市日高消防団では、地域の防火・防災における女性視点での取組を進めるため、女性消防団を令和元年に三名の団員により結成し、現在五名の団員が活動しています。主な活動内容として、初出式等の行事参加や、操法大会におけるアウンス等の運営補助のほか、年末特別警戒では男性団員と共に夜間パトロールを行っています。

また、月に一度、女性団員だけで巡回パトロールも行っていきます。さらに、秋の全国火災予防運動の防火パレードでは、地域の子ども園児達と一緒に拍子木を打ち鳴らしながら街中を巡回し火災予防を呼びかけています。

結成直後、コロナ禍となり訓練が十分にできず、私たちにできることがあるのか最初は不安でしたが、初出式の行進参加や消防署での訓練、消防学校での研修等を受けるにつれ、少しずつ活動の幅を増やすことができ、自信につながっています。結成したばかりでまだ手探り状態の女性団ですが、



日高分署前にて



訓練の様子



防火啓発の様子

大きな災害が頻発する昨今、一人ひとりの災害に対する備えは不可欠です。分団内でも、地域の方々の防災意識の高揚を図るため、ワークショップを取り入れた防災教室の開催を検討しています。地域防災の中核を担う消防団の一員として、他市の活動なども参考にしながら、より地域に密着した活動をしていきたいです。

地域防災の中核を担う消防団として住民の財産、生命を守り、安心して暮らせる安全なまちづくりのために努力していきます。



秋の放水訓練の様子

『優しさあふれる活動を』
豊岡市日高消防団 女性消防団

加東市消防団は、平成一八年の市町村合併により、旧加東郡三町「社町」「滝野町」「東条町」の消防団が一つとなり誕生しました。加東市消防団には、機能別分団を含めて一、一〇〇人の消防団員が在籍しており、日々警戒や訓練を行っています。

そんな加東市消防団に、令和六年四月一日より、広報・啓発活動を中心として行う女性分団「ポラリス」が七人の女性団員を擁して発足しました。ポラリスは、英語で北極星を意味するもので、これを分団名とした理由は、「暗闇の中にある時であっても光を放し、人々を元気づけられる、そんな存在でありたい。」という意味が込められています。

活動初年度である今年度は、「自分たちだけができる」活動を模索しながら、地域のイベントや街頭啓発への参加を通して、消防団や火災予防についての啓発に努めています。また、女性消防団員の研修や男性消防団員の訓練、応急手当の普及講習にも参加し、他市町の女性分団の取り組みや消防団についての見識を深めています。

大きな災害が頻発する昨今、一人ひとりの災害に対する備えは不可欠です。分団内でも、地域の方々の防災意識の高揚を図るため、ワークショップを取り入れた防災教室の開催を検討しています。地域防災の中核を担う消防団の一員として、他市の活動なども参考にしながら、より地域に密着した活動をしていきたいです。

『希望の光を目指して!』
『ポラリス』発足!
加東市消防団

消防団ピックアップ

Pick Up!

『守れ！わがまち！猪名川町消防団』

猪名川町消防団

猪名川町は、兵庫県と大阪府の県境に位置し、都市近郊にありながら猪名川渓谷の自然が町域の八割を占め、四季を通じて豊かな自然を感じられるまちです。阪神地域最高峰の大野山（標高七五三メートル）を源流とする猪名川が、町の中央を南北に縦断しています。昭和三〇年に中谷村、六瀬村二村の合併により猪名川町が誕生しました。このことに伴い、消防団員定数五〇〇名、六小隊、三分団で猪名川町消防団が発足しました。

近年、消防団員の高齢化や新入団員の減少などの課題がクローズアップされるなか、これらを解決するため消防団と自治会長が協議を行い、発足以来、長年続けてきた組織体制を見直し、平成二八年には定数四〇七名、二八分団に、令和六年四月には定数三五〇名、四小隊、三分団に消防団の組織再編を行いました。これにより現場活動機能の充実・強化を図ることができ、地域防災力の中核として住民の安全確保のため活動しています。

また、消防団組織再編に伴い、平成二八年に発足した『女性消防分団』を令和六年四月に『本部付分団』に改名し、町内ニュータウン在住の方を対象に入団促進を行い活気ある消防団づくりを進めております。女性消防団員は、現在、本部付分団に六名、在来地区に一名在団しており、女性ならではの発想や観点で今までとは違う角度から消防団をPRするとともに、地域の方々の架け橋となれる活動を目指し、日頃から予防広報や防火防災フェアに参加し普及

活動に取り組んでいます。当消防団は、毎年六月に分団訓練を実施し、小型動力ポンプの操作や放水要領等の基本訓練風水害に備えての防水訓練を併せて実施しています。一〇月には、分団相互での連携を目的とした小隊活動訓練を実施しています。この訓練では、実際の山林を利用して、水利から長距離かつ高低差のある火点まで、小型動力ポンプで中継を行いながら消防ホース約二〇本を延長します。有事の際に迅速的確に活動できるよう、訓練時から防災無線を活用し分団間の連携及び情報共有を図り、より実践的な訓練を行っています。



小隊活動訓練



女性消防団員による普及啓発活動

また、当町では、災害から地域住民の生命・身体・財産を守るため、各地区の自主防災会・自治会が中心となり、災害発生時に迅速な対応と地域住民の防災意識の向上を図ることを目的として小学校単位で校区防災訓練を実施しています。その中で消防団は、地域住民に対して初期消火や救出救助の指導を行うなど、地域と連携した防火・防災活動の推進を図っています。このように、訓練を通して消防団が身近な存在であることを知っていただくことで、幅広い世代に対して効果的な広報活動ができています。

今後も猪名川町民が安全で安心できるまちづくりの中核を、猪名川町消防団が担ってまいります。

兵庫県南西部に位置する姫路市は、人口およそ五三万人、市域面積五三三平方キロメートルで、北は中国山地の雪彦山、南は瀬戸内海に浮かぶ家島諸島を擁し、八団で構成されています。由緒ある文化施設をはじめ商業施設や繁華街、住宅密集地など多様な都市構成が形成されています。まちのシンボルである国宝姫路城は、一昨年の一二月に世界遺産登録三〇年の節目を迎え、令和五年度の外国人入場者数が初めて四〇万人を超えるなど、連日国内外から多くの観光客が訪れています。そんな国際色豊かなまち「姫路市」の中心部を管轄するのが、姫路東消防団です。昭和四四年の発足以来、分団の再編を経て現在一本部二〇分団、団員七二〇名で活動しています。「市民の安全・安心を第一に考え、地域とのつながりを大切にしたい」という団長の信念のもと、消火活動をはじめ、台風や風水害に係る対応など、消防団活動は多岐にわたります。



はしご乗り演技



常備消防との連携訓練

特に近年は、南海トラフ地震など大規模災害への備えとして、自主防災会を通じて地元住民への訓練指導を行ったり、常備消防との連携訓練にも注力し、時代にあった消防団活動を日々模索しながら、地域の安全安心を守っています。

【新春恒例の消防出初式】

毎年一月、姫路城三の丸広場で開催される消防出初式、市内八つの消防団が持ち回りではしご乗り演技を行っていきま

す。はしご乗り演技は、江戸時代から伝わる伝統芸能の一

『古き良き伝統を守りながら、常備消防との連携訓練の充実強化を図っています！』

姫路市姫路東消防団

つで、木遣り節のメロディーに乗せ、高さ約七メートルの梯上で「背亀」や「唐傘」など、様々な曲芸を披露します。近年は転落危険を伴う等の理由から、実施を見合わせる自治体が増えるなか、訓練を積み重ねた精鋭団員の演技を一目見ようと毎年多くの方が訪れています。

【常備消防との連携訓練】

例年、技術向上を目的に新入団員向けの教育訓練や、土のう工法を実践する水防訓練など日々様々な訓練を実施しています。一方で新型コロナウイルスの流行を契機に日々の生活形態が見直されるなか、こうした訓練にも変化や工夫が求められるようになったと感じています。

災害への備えとして、各市町で地域の実情に沿った様々な対策が講じられるなか、本団においても南海トラフ巨大地震や山崎断層帯地震の発生を見据え、常備消防との連携強化に取り組んでいます。管轄エリアによって消防分団の活動にも特色があり、使用する資器材が異なることも珍しくありません。

こうした分団個々の特性や活動上の課題に目を向け、消火訓練や揚水訓練では、従来の基本動作の確認だけでなく、常備消防と一体となり、高度な技術の習得に努め、日々応用を兼ね備えた訓練を実践しながら複雑化する災害に対し、一層危機感を高めています。

われら若手消防団員

～消防団の一員になって～

～一人前の団員を目指して～

丹波市消防団

団員 畑中直之



「来年から消防団、お世話になれるか（頼まれてくれるか）」と地域の団員から平成二九年の年明けに声をかけていただき、その年の四月から私の消防団員としての活動が始まりました。丹波市消防団に入団してから今年で七年目になります。

入団前は自宅が小学校から近いこともあり、ポンプ操作の訓練が夜中に行われている様子も小さいころから見えていたので、「消防団って大変そうだな」という印象も正直なところ持っていました。

淡路市消防団

団員 摺臼祐輔



私は、地元の市役所に勤務しており、消防団に入団することが決まっていた令和五年四月に、危機管理部消防防災課へ配属となり、それ以来、二つの立場から火災の消火活動現場へ出動しています。

当初、資器材の名称すらもわからない中、火災の連絡を受け、初めて火災現場に向かったときの不安と緊張、戸惑いは今でも覚えています。

早朝や夜中の火災もありました

しかし、入団してみれば先輩の団員の方々が温かく迎えてくださり、入団当初、周りが年上の方ばかりで緊張を覚えている私に優しく声をかけていただいたことを今でも覚えています。友人の父親も所属しており、幅広い年代の人たちで交流ができる場であり、つながりもできました。

普段は和気あいあいと活動をしていきますが、火災等発生時には真剣な眼差しで迅速に消火活動を行う先輩方の姿を見て、改めて、消防団はこの地域の人の命を守る大切な活動を担っているということを実感するとともに、「自分も早く役に立てるようになりたい」と思うようになりました。

そして私自身も今年初めてポンプ操作の選手としての出場が決まり、訓練を通じ、少しずつ、機械の扱い方もわかるようになりました。まだまだわからないことも多いですが、地域の命と安全を守る消防団員の一員としての誇りを持ってこれからも活動をしていきたいと思っています。

が、地元の消防団員が多く出勤しました。その姿勢には、「自分たちの町は自分たちで守る」という強い責任感を感じました。

消防団の人は、普段は仕事をしていきます。それでも昼夜問わずの消火活動や行方不明者の捜索、夏まつりの花火警備、さらには訓練や年末警戒など、消防団は多様な役割を担っています。

そんな消防団ですが、まちの少子化の影響などもあり、なり手減少も危惧されています。私自身は、消防団に入団することに抵抗がありませんが、今では、新たな人との出会いやつながりが私を成長させ、大きな財産となっています。

まだまだ未熟な私ですが、消防団としての活動を通じ、地域の一員としての誇りを胸に、地域防災の力となれるよう頑張りたいと思います。

わが町の団長さん

「課題の解決は チーム力向上で」



尼崎市消防団長 上岡 良照

猪名川と武庫川という大きな二つの流れに挟まれた尼崎は、大阪湾と川と大地が織りなすめぐみを求めて、太古の昔より人々が居住して来ました。やがて、古代から中世にかけて、大和・難波・京といった政治・経済の中心地と、西国・瀬戸内を結ぶ海陸交通の要地として尼崎は栄え、近世には大坂の西の備えの城下町として、また近代には国内有数の工業都市として発展を遂げました。現在の市域には、人が密集し、交通の要衝であるがゆえにみなさんも御存知のさまざまな事故や災害を経験してきました。

そんな尼崎ですが、熱狂的な阪神タイガースファンが多いことでも知られ、チームの優勝を願って「日本一早いマジック点灯式」が行われる尼崎中央商店街があるのも尼崎です。その商店街を擁する中央地区で、消防団員として長きにわたり地域防災に貢献し、市民の安全・安心を支えてこられた上岡団長も「虎党」であります。阪神タイガースのファーム施設である「ゼロカーボンベースボールパーク」の建設も進んでおり、強いチームの育成に期待は膨らむばかりです。

尼崎市消防団も、全国的な例にもれず団員数は減少傾向

にあり、消防団員の高齢化とともに解決すべき喫緊の課題となっております。

上岡団長も率先して研修や訓練に参加し、消防団活動の活性化を促し、新たに設置された企画広報分団と共に入団促進広報にも注力されており、地域防災力向上のため消防団としてのチーム力の強化に努められています。団長の尼崎市消防団での長きにわたる経験と見識、そしてリーダーシップを発揮されることで、強いチーム力をもって来る災害に立ち向かいます。

「安心安全なまちを目指して」



香美町消防団長 磯田 啓介

兵庫県北部にある香美町は、面積の約六割が自然公園区域に指定され、日本海から山間地域まで山・川・海の豊かな自然に恵まれています。松葉ガニや海水浴などが楽しめる日本海に面した「香住エリア」、美しい棚田の風景が広がる「村岡エリア」と「小代エリア」の三つのエリアからなり、豊かな自然と美味しい食材に出会える町です。

香美町消防団は、平成一七年に三町が合併し、香美町誕生と同時に発足し、三支団二七分団で構成しています。

磯田団長は昭和六〇年に旧香住町消防団に入団し、入団当初から消防団活動に熱心に取り組まれました。平成二三

年より副団長を務め、令和六年四月一日より第五代香美町消防団長に就任しました。

就任以降、消防団の理念である「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを基本方針に、いつ発生するか分からない火事に対して、各自が考えて素早く対応できるように意識した訓練（火災想定訓練）を実施しています。

また、消防団員の高齢化や新入団員の減少などさまざまな問題を抱える中、団員の負担を軽減しつつ、基本動作（操法）の習熟にも配慮した実践訓練への転換を進めるなど、消防団員が長く在籍し活動できるような環境づくりに取り組んでおられます。

磯田団長を中心に、安心安全なまちづくりに貢献できるよう、自主防災組織と連携を強化し、香美町消防団はこれからも地域に密着した活動を展開してまいります。

「時代に即した消防団を目指して」



神河町消防団長 藤原 朋訓

神河町は、兵庫県の中央付近に位置するハート形の町です。壮大なスキの高原「砥峰高原」、清流が美しい名水スポット「越知川名水街道」、ア

ルパカなどの動物と触れ合える「農村公園ヨードルの森」や日本で一番新しいスキー場「峰山高原リゾートホワイトピーク」など、四季を通じ自然を楽しむことができます。

神河町消防団は、平成一七年一月に旧神崎町と旧大河

内町が合併して誕生しました。現在、七分団二七部、団員数四八五名で構成され、町民の安心安全を守る為、日々活動しています。

藤原団長は、平成一六年四月に旧大河内町消防団に入団され、令和二年から副団長を経て、令和六年四月に団長に就任されました。

コロナ禍を経て社会や団員を取り巻く環境も変容する中で、団員の処遇改善や負担軽減にも柔軟に取り組まれ、時代に即した消防団の形を前向きに模索しておられます。消防団は地域防災の中核であるという考えのもと、近年頻発する大規模災害を想定した救助資機材訓練を実施されるなど、消火活動だけではなく総合的な防災力強化にも注力されています。

人口減少に伴い年々団員確保が困難となる一方で、町民からの消防団に対する期待は大きく、求められる任務も複雑多様化傾向にあります。そのような地域の幅広いニーズに応えられる消防団を目指し日々努力をされている団長です。

「わがまちの団長さん」



多可町消防団長 森本 博之

わがまち多可町は、東播磨地域の内陸部に位置し、山林面積が町域全体の約八割を占める中山間地域にあります。

本町は、「酒米」「山田錦」発祥のまちである旧中町、「手漣き和紙」「杉原紙」発祥のま

の祝日「敬老の日」発祥のまちである旧八千代町の三町が平成一七年一月に合併して誕生しました。

旧町ごとに組織されていた消防団も時を同じくして合併し、多可町消防団がスタートしました。

令和七年一月には、多可町消防団誕生から二〇年の節目を迎えます。この節目の年を団長として消防団を率いることとなり、消防団が引き続き地域防災の要となるよう導いてくださる森本団長をご紹介します。

森本団長は、平成二年に入団、二一年間勤められた後、一度退団されましたが、平成二七年から分団長、副団長を歴任され、令和六年四月に団長に就任されました。

森本団長は、その風貌、エネルギーシユな色黒の肌にしてスキンヘッド。その風格から、初対面であれば近寄りたいたい威圧感。しかし、その実態は、団員はもちろん誰に対しても気遣いの人。

下は一〇代から上は五〇代までの幅広い年齢層の消防団員のこと気を配りながらも、消防団活動は、『基本に忠実』、『日々、消防技術の再確認』をモットーに、何が起きても堂々と自信をもって行動できる消防団運営を心がけていらつしやる団長です。



神戸市灘消防団長 中本 敏彦

「安全安心なまち 灘区を守る団長さん」

神戸市灘区は神戸市の中でも東部に位置し北は瀬戸内海国立公園の六甲山、摩耶山、南は大阪湾に面した風光明媚なまちで西郷などの酒蔵が有名です。NHK連続テレビ小説「おむすび」のロケ地にも選ばれました。

団員数一三八名八分団で構成される灘消防団を率いる団員歴三四年の中本団長をご紹介します。

平成二年に灘消防団へ入団して以来、常に第一線で活動され、行動力と統率力が認められ令和六年四月に灘消防団団長に就任されました。

長い活動歴の中で「第一回神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会」には一員として出場されました。また、灘消防団が「第二回兵庫県消防操法大会」に神戸市代表として出場した時には、コーチとして選手への実技指導を率先して行い抜群のリーダーシップを発揮しました。

現在、灘消防団には女性団員が二八名在籍しています。中本団長の奥様も第一期の女性消防団員として入団され、今も活発に活動されています。

灘消防団では初めての夫婦消防団員で、高い防災意識をご夫婦共に持つておられます。

これからも灘消防団の先頭に立ちリーダーシップを存分に発揮し、灘区の安全安心なまちづくりに、より一層のご尽力をいただきますようお願いいたします。

「大好きなまちを守るために 未来の消防団員へ」



福崎町消防団長 廣岡 徹也

福崎町は、兵庫県の中央部からやや南西寄りに位置し、豊かな自然と民俗学者柳田國男の生家があり妖怪によるまちおこしで注目を集めています。

福崎町消防団は、一団本部三三分団、団員数六〇〇人で構成されています。

廣岡団長は、平成二〇年に福崎町消防団に入団、令和二年から本団幹部となり、令和六年から団長として、持ち前の正義感と冷静でスマートな対応で団員からの信頼も厚いものがあります。

コロナ禍を経て消防団活動にも大きく変化が生じている中で団員の声に耳を傾け、より良い活動となるように指導力を発揮されています。「自分たちのまちは、自分たちで守る」この言葉を胸にあらゆる消防団活動においてリーダーシップを発揮され、ご自身が生まれ育った大好きなまちを本気で守りたいと思う団長の覚悟が表れています。

いま団長が特に力を入れているのが、町内各小学校との合同防災訓練です。令和五年には、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した活動で未来の消防団員に訓練を通して格好いい姿を見てもらいたい大好きなまちを守る志を持つ仲間として将来バトンを繋いでくれることを願っています。

これからも益々ご奮闘いただき、住民の安心安全と未来の仲間のために貢献されることを期待します。